

平成29年度第3回練馬区障害者差別解消支援地域協議会議事録

- 1 日時 平成30年3月19日(月) 午前11時から12時
- 2 場所 区役所 交流会場
- 3 出席委員 高橋委員、金杉委員、福島委員、吉岡委員、小原委員
田中委員、山崎委員、森山委員、松澤委員、的野委員
市川委員、田中委員、北川委員、松本委員、安部井委員
古畑委員、千葉委員、石野委員、鈴木委員、蔵方委員
榎本委員
(以上21名)
※欠席 増坪委員、新居委員、押委員(代理出席)
- 4 傍聴者 3名
- 5 配布資料
 - ① 資料1 練馬区における障害を理由とする差別に関する相談について
 - ② 資料2 平成29年度の障害を理由とする差別の解消の推進に関する取組(報告)
 - ③ 資料3 障害を理由とする差別の解消の推進に関する取組について(案)

○会長

それでは定刻となりましたので、始めたいと思います。お手元の議事次第に沿って進めさせていただきます。

練馬区における障害を理由とする差別に関する相談事例について、報告をお願いします。

○障害者施策推進課長

資料1の報告

○会長

ありがとうございました。この件につきまして、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。

○委員

相談事例の中で「見た目で障害が分からないので窓口で混乱した」という相談があったようですが、どのような障害だったのでしょうか。分かりにくいというのは発達障害とか精神障害の方でしょうか。

○障害者施策推進課長

この方は精神障害の方と聞いております。窓口で、言葉の使い方ですとか伝え方にもっと配慮が必要だったのではないかと考えております。ご本人から障害のことを窓口にお伝えいただいたうえで、スムーズな意思伝達ができるよう支援しました。ご本人からするともっとわかってほしい、という思いがありますが、窓口ではそこまで深く読み取れなかった。窓口での対話が大事なかと思っています。

○委員

施設について、車いすを利用した方から「施設内が砂利敷きのため移動しにくい」という相談があったようです。この施設内の対応として、個別にご案内するだけでなく、例えば案内板を出す等の対応を検討できないでしょうか。

○障害者施策推進課長

施設に関しましては、施設の状況も踏まえて、いただいたご意見を参考にしながら、より利用しやすい施設づくりが大事だと思っています。今回はこの方に個別に対応しましたが、施設としても運営の課題としてとらえていると思います。

○会長

このような相談事例が積み重なっていくと、公共施設だけでなくいろいろなところで考えさせられる事例になっていくと思います。これからも、相談事例等についてはご報告いただき、検討してまいりたいと考えています。

他になれば引き続き平成29年度に実施した啓発事業について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

資料2の説明

○会長

協議会委員の皆様にもご協力いただいて啓発事業を実施してまいりました。今のレベルでは相談をいただくことが気づきにつながりますが、啓発に関する取組が少しずつ成果を上げて、とりわけ合理的配慮のレベルでの相談がなくなることにつながるよう連動できるとよいと思います。

引き続き、新年度に向けた啓発事業について、事務局からご説明をいただき、委員の皆さまからいろいろなご提案もいただけたらありがたいと思います。

○事務局

資料4の説明

○会長

研修や講演会等の啓発事業のほか、学校等に対して授業の提案をしていくことなどが検討されています。子どもに対する啓発は、自宅で家族に話をしてそこから広がっていくという意味でも、大事なプロジェクトだと思います。今、子どもの数が少なくなっているなか、例えばご家族に障害者がいれば別ですが、そういう経験をお持ちでないお子さんがたくさんいらっしゃる、そう考えると大事な取組だと思います。ご意見・ご質問等ありましたらお願いします。

○障害者施策推進課長

可能であれば、各団体の方から、どのような授業が提供できるのか、少し紹介していただけるとありがたいのですが。

○委員

手をつなぐ親の会では、昨年度からキャラバン隊に取り組んでいる。知的障害がある人は、こんな風に見える、こんな風に聞こえる、という体験をしてもらい、手ごたえがあった。小学校4年生を対象にしているが、大人や事業者の

人も分かってもらえるような疑似体験を提供している。

○委員

言葉でいうだけではわからないが、コンビニや駅に点字がある、その人たちが生きている範囲の中にある障害者のことを話していきたい。見える人と見えない人も互いにふれあい触りあう、そういう中でお互いをつくる、一緒に社会をつくっていく、そういうことをやりたい。

○委員

聞こえることが当たり前だが、聞こえないというのがどういうことか、体験してもらおう。そのうえでコミュニケーションとして手話の実技などを考えている。聴覚障害者協会では、以前から学校からの依頼を受けて授業に取り組んでいる。どういう指導が良いか、委員会を設けて取り組んできた。できるだけたくさんの学校に学んでいただきたいが、現状は正当なカリキュラムに入っていないので、先生の判断になっている。訪問するのは聴覚障害者2名、スタッフ3名、チームで行く。パンフレット等も活用している。終了後は反省会をしながら取り組んでいる。

○委員

冊子の内容について不足があると思われる部分がある。障害者団体も協力し充実した方がよいことの提案や分かりやすいものを工夫していけると思っている。

重症心身障害児者の場合、本人は話せないので説明者は親となる。本人を伴えば理解しやすくなり、車いす等の説明もできる。話す内容によって幼稚園から中学校まで対応できる。

○委員

精神障害者は内容を絞って、中学2年生くらいを対象に、悩んでいるときにどうすればいいのか、伝えたい。昨年度、東京都と一緒にリーフレットを作成した。それをもとに辛い時にどうすればよいか、精神障害の予防という観点から話をしていきたい。

○学務課長

現在、学校における障害に関する教育については、総合的な学習の時間などで取り組まれています。また、広く人権教育という視点で考えた場合に、様々な課題をバランス良く取り組んでいくことになると思いますので、そういった部分で現場の先生方にも苦労があることをご理解いただければと思います。

また、ユニバーサルデザインのお話がありましたので、これについてもお話しさせていただきますと、練馬区の約半数の小中学校に特別支援学級が設置されており、特別支援教育を行っている教員と、通常学級の指導を行っている教員とが日常的に交流をしたり、指導方法について相互に情報を交換するといったことが行われます。これにより、お互いにスキルを学び合うことで、ユニバーサルデザインが授業の進め方として定着するような機会も増えてくるかと思っています。今後も各団体の皆さまと力を合わせつつ浸透を図っていく必要があると思っております。

○会長

障害者は支援してもらう人、という面だけではない。パラリンピックで活躍する人も、芸術家もいる。優れた人がたくさんいるので、そういうアプローチもしてほしい。支援の対象だけではない様々な能力や可能性があることも大切な視点だと思う。この成果は来年度報告いただけると思っている。

要領よく、分かりやすい教材などを作ることは苦労もあるかと思うが、とても大事な活動になるので、よろしく願いしたい。

特段のご発言がなければ、これで本日の障害者差別解消支援地域協議会を終了いたします。年度末、ご多用の中をご出席いただき、どうもありがとうございました。

以上